

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和4年11月4日 第45号
件 名	「グリホサート農薬」のっていない安心安全な学校給食の提供を求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 300px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 220px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 100px;"></div> <div style="background-color: black; width: 240px; height: 20px; margin-left: 150px;"></div>
紹介議員	沢 田 けいじ 小 林 れい子
請願の要旨	次 頁 の と お り
付託委員会	文 教 委 員 会

請願理由

農水省は 2022 年 9 月、発ガン性や強毒性のため海外で禁止されている農薬の補助剤 30 種類を使用禁止にする省令案を示しました。禁止リストの中には、「除草剤ラウンドアップ」で使用されている補助剤も含まれています。しかし、仮に規制が導入されても「猶予期間」が定められているため、使用禁止になるのは 5 年後です。文京区の学校給食では、今でもラウンドアップが残留する可能性の高い輸入小麦を使用したパンを子ども達が食べています。

日本は世界第 3 位の農薬使用国にもかかわらず、農薬の毒性が正しく評価されていません。農薬は主成分と補助剤で構成されています。「ラウンドアップ」の主成分グリホサートは毒性が低いため、単独で草を枯らすことができません。そのため、毒性の高い補助剤（界面活性剤・乳剤・防腐剤など）が添加されます。カーン大学セラリーニ教授は、補助剤は主成分グリホサートの 1000 倍以上の毒性があると指摘しています。それにもかかわらず、国の定める農薬の残留基準値や ADI（一日摂取許容量）は、主成分のみで行う動物実験から算定されます。毒性の低い主成分でしか動物実験をしていないにもかかわらず、それを市販の農薬（主成分+補助剤）の安全基準にするというおかしい解釈を国はしているのです。

農薬は、市販される農薬（主成分+補助剤）で安全性を確かめる必要があります。2015 年、WHO 下部組織の国際ガン研究機関（IARC）が「グリホサートには恐らく発ガン性がある」と発表しました。これは、市販される「ラウンドアップ(主成分+補助剤)」での評価です。アメリカでは、「ラウンドアップ」が原因でガンになったとの訴訟が 13 万 8000 件起きました。

国内では国産小麦を使う動きが広がっています。2021 年に「グリホサートの残留がない国産小麦を学校給食で使用して欲しい」との署名が 14,280 筆提出された熊本県では、2022 年の 2 学期から 100%国産小麦が実現しました。農水省の輸入小麦残留農薬検査では、アメリカ産小麦 97%、カナダ産小麦 100%からグリホサートが検出されています。一方、日本では小麦の収穫前にラウンドアップを散布することが禁止されているため、国産小麦には残留がありません。子どもの命と健康はお金には代えられません。文京区でも子ども達を守るために、予防原則で対応して下さい。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

請願事項

- 1 子ども達の命と健康を守るため、予防原則に基づき、グリホサート残留の可能性が高い輸入小麦は学校給食での使用をやめて、国産小麦または米飯にするよう区に求めること。
- 2 国が安全とする基準値は主成分のみから算出されており、ラウンドアップの補助剤の強毒性が無視されているため、輸入小麦を使用するのであれば、今の 1000 倍以上厳しい安全基準値を独自に設定するよう都教育委員会に求めること。
- 3 保護者や子どもが学校給食でのグリホサート残留数値をいつでも調べられるように、低濃度の残留が検出可能な検査施設での検査、定期検査の実施、ホームページ上での検査データの公開を東京都学校給食会等の納入業者に求めること。
- 4 農薬は、市販される農薬（補助剤も入れて）から残留基準値と一日摂取許容量を算定するよう国に求めること。
- 5 農薬の毒性試験（発がん性・慢性毒性・発達神経毒性など）は、市販される農薬（補助剤も入れて）を使用して行うよう国に求めること。